



愛媛県「企業合宿型人材育成」ワークショップ

持続可能な林業への挑戦

～この森を100年後も残し、守るために、あなたの力が必要です～



えま
ひじめめ

2030
2050
内子町の脱炭素ビジョン

かわらないように、かえてゆく。

町並み、村並み、山並みを引き継ぐ、脱炭素リレー。

- 1 内子町について**
- 2 林業の課題について**
- 3 県・町・地域の取組みについて**
- 4 ワークেশョンプランについて**
- 5 最後に未来に向けて**

- 1 内子町について**
- 2 林業の課題について
- 3 県・町・地域の取組みについて
- 4 ワークেশョンプランについて
- 5 最後に未来に向けて

町並み・村並み・山並みを磨いている美意識が息づくまち



町並み・村並み・山並みを磨いている美意識が息づくまち



泉谷の棚田



五十崎大凧合戦



笹まつり



町並み保存地区

町並み・村並み・山並みが息づく美意識が息づくまち

芝居小屋「内子座」



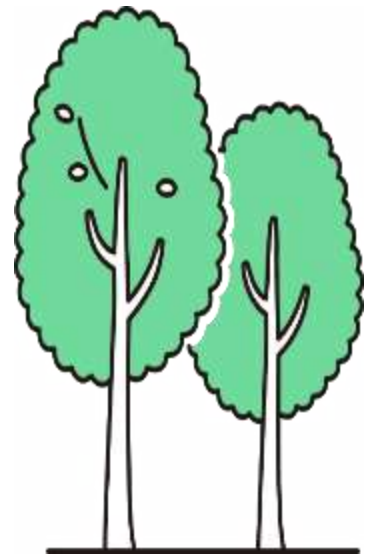
重要文化財「内子座」



手漉き和紙



山と共に生きている「内子（うちこ）町」



林業が基幹産業

町面積の約80%を森林が占める
(林野面積 23,059ha)

出典：2020年農林業センサス

町の東側には、1300m級の山々と渓谷で形成される小田深山国有林4,408haを保有



人口 15,322人

世帯数 6,258世帯

出典：令和2年国勢調査

町並み
ワーケーション
フィールド



- 1 内子町について
- 2 林業の課題について**
- 3 県・町・地域の取組みについて
- 4 ワークেশョンプランについて
- 5 最後に未来に向けて

林業の現状 <木材価格・林業従事者の平均給与>

木材価格は長期的に下落 (近年は概ね横ばい)

■ヒノキ ピーク時の約**1/5**の価格に下落

72,500円/m³ ⇒ **13,261円/m³**
(ピーク1980年) (最安2012年)

■スギ ピーク時の約**1/4**の価格に下落

36,800円/m³ ⇒ **8,501円/m³**
(ピーク1980年) (最安2009年)

出典：愛媛県森林組合連合会市場平均価格



木材 1 m³ ≒ 丸太10本
(直径18cm長さ3 m)


林業従事者の所得は他産業に比べて低い

■年間平均給与 (2017年)

全産業**432万円** 林業**343万円**

出典：国税庁「民間給与実態統計調査」





**残材・未利用材（大径木）
の活用**

産地だけでは解決できない課題

太い木が安い

現在の流通・製造

直径24cmの素材が理想で28cmを超えると安価

製材所の機械に入らない、
移動費や処分費、手間が
余計にかかる

太い木が

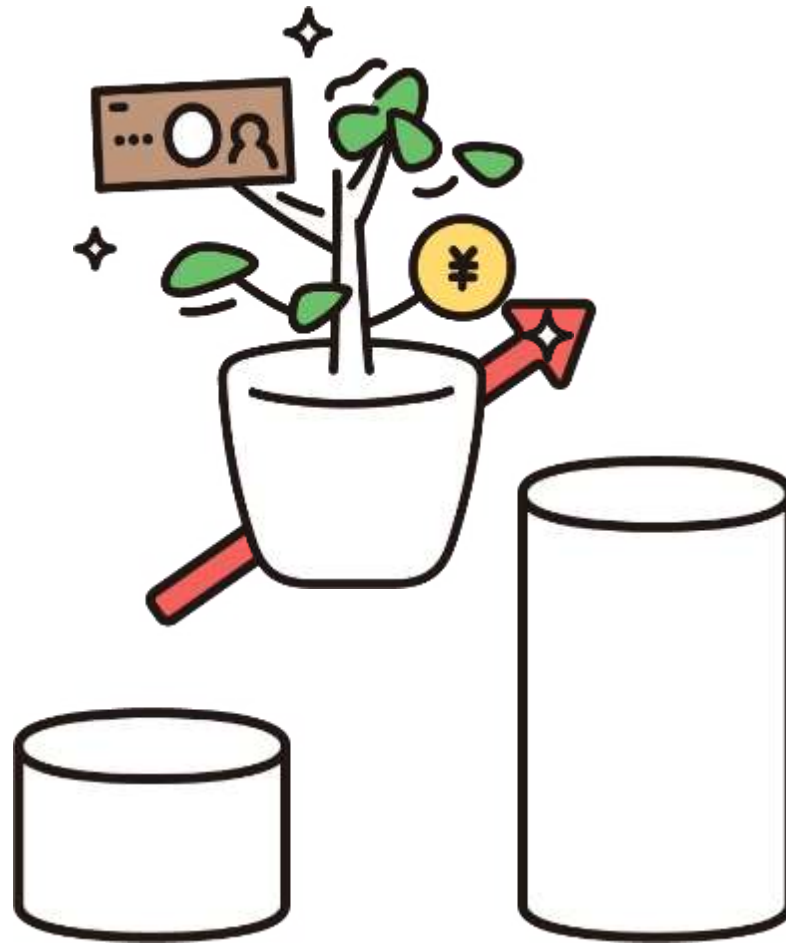
社会のニーズに対応していない ⇒ 地域のみでニーズを変えるのは困難

太い木（未利用材）の市場をつくり、森を守る

- 内子町には50年以上の木が多く、頑張って手入れした山に、いい木が育っているが、太いと単価が安くなる
- 本来は一番評価されるべき品質なのに、きちんと評価されていない
そういう木が内子町でどんどん増えてくる
- この問題を解決しないと内子町の林業に明るい未来は見えてこない



未利用材の活用で
『林業の付加価値化』



山に捨てられていた
『木材の収益化』

ちゃんと育てた『木』を価値のある『木』として流通

- 1 内子町について
- 2 林業の課題について
- 3 県・町・地域の取組みについて**
- 4 ワークেশヨンプランについて
- 5 最後に未来に向けて

林業の持続的発展に向けた愛媛県や内子町での取り組み

県土面積の約7割(約70万ha)が森林
ヒノキ生産量が全国3位
スギ生産量は全国11位



＜林業×発電×熱利用＞
100%未利用材の木質ペレットで発電（内子町内2カ所）



＜県産材の増産＞
最先端技術の導入、経営基盤の強化、森林管理

＜森林環境の保全＞
県独自の財源で森林と共生する文化の創造（6年間で約27億円）



森林環境税

バイオマス
発電

ブランド化

林業の
成長産業化

森林経営の
集積

利用促進

媛：すぎ
媛：ひのき
＜県産材の競争力強化＞
品質基準を定めてブランド材の生産と普及促進



＜県産材の需要拡大＞
CLTの利用促進、公共施設の木質化、営業活動の強化

林業の未来を紡ぐ地域での取り組み

林業×交流



標高1,000mで1,000人が交流するイベント

林業×職場体験



学生が山で働く未来の自分をイメージする

林業×教育



子どものための林業版プログラミング教育

「森の入り口をつくる」がコンセプトの株式会社武田林業の代表取締役「武田惇奨」です。まちと山の間位置する「桧」にたち、それらの接点をつくることで林業を下支えする活動をしています。森林がたくさんの業種と結びつくことで、新しい可能性が見えてくると思っています。



知恵を出し合って、ともに取り組みたいコト

森林を整備する山の循環はできるが、
市場化・価値化ができない



原木をくまなく利用して、その価値を高めていく

既存の発想から転換し、
“現場発”で新たな価値の創出を目指す



残材・未利用材（大径木） 価値化・市場化



未利用資源の付加価値や商品化など
新たな価値を生み出すアイデアやノウハウを提案



地域との関わりを機に
地域共創パートナーとして継続的な関係を構築

企業の重要課題(マテリアリティ)に取り組むフィールド

テーマは「町の8割を占める森林」と「未利用材」

林業に関係なさそう活動も実は森林保護に役立つなど
森林を利用して、森に人が入るきっかけをつくることも大切

地域と企業による課題解決に向けた取り組み

- ① 未利用材を商品化(間伐材家具など)してスケール
- ② モノづくりで森林と都市部の需要をつなぐ仕組みづくり
- ③ 森や木を生かした地域との協働を重視した研究開発
- ④ 森林資源の循環利用と森林経営への資金循環による
カーボンニュートラルの実現
- ⑤ 森林空間を健康・観光・教育など様々な分野で活用して
森林サービス産業を創出

- 1 内子町について
- 2 林業の課題について
- 3 県・町・地域の取組みについて
- 4 ワーケーションプランについて**
- 5 最後に未来に向けて



一般社団法人えひめ暮らしネットワーク 参事 山口聡子（やまぐち さとこ）

愛媛県西予市出身。東日本大震災を機に東京から出身地にUターン。
以後、地域おこし協力隊として地元のまちづくり活動に専念。
2021年から内子町に開設したコワーキングスペース「南予サイン」の家守をしながら、
協力隊の経験を生かし、**都市と地域のあいだにたって、地域と移住希望者を結ぶ活動。**
2022年、一般社団法人日本ワーケーション協会から**ワーケーションコンシェルジュに認定**され、企業と地域の橋渡し役を担う。



株式会社武田林業 代表取締役 武田惇奨（たけだ しゅんすけ）

愛媛県松山市出身。福岡にて世界最大手の外資系広告代理店で企画営業職を5年。
その後、内子町へJターン移住。地域おこし協力隊として林業の6次産業化に従事。
ヒノキ林業を営んでいた祖父の影響で、山と林業に関心を持つ。
前職の経験を生かし、**都市と山のあいだ「禁」にたって、人々と山林を結ぶ活動。**
林業を体験する学習イベント「**ワンツーツリーフォレスト**」は**ウッドデザイン賞を受賞**
木育×プログラミング教育を提案する**MOCKUPプログラミング教育**は**グッドデザイン賞**
2019を受賞



林業の現場視察・森林伐採見学

- 山林の現場や林業を理解
- 森林の価値を認識
- 森を仕事場とする担い手の職業観に迫る



脱炭素と地域循環を学ぶ

- 内子町の脱炭素ビジョンを学ぶ
- これまでの100年、ひたすら守ってきたものは何か
- これから30年、何を守っていく必要があるのか学ぶ



木質バイオマス発電所見学

- 林業の現状や新たな取り組みを学ぶ
- 小型発電所として四国初！バイオマス発電の意義を学ぶ
- エネルギーの地産地消、林業の持続可能性を探求



デジタル技術で木に挑む

- デジタルファブリケーション技術（3D木材加工機）で未利用材の可能性
- SDGsアクションを実感する木工体験
- 山の資源の活用が持続可能な社会をつくることを学ぶ
- デジタルのものづくりが、生産と消費を結び付け、新たな木材需要を生むきっかけを学ぶ



溪谷サウナ

- 高知県仁淀川の上流部「小田深山溪谷」でサウナ体験
- 空を覆うように広がる樹々と溪谷のせせらぎ
- 森で、テントで、溪谷を水風呂に、本物の森林浴

ワーケーションで新たなビジネスの『可能性』を創出

1DAY

- 内子町に到着
- テレワーク
- 脱炭素と地域循環を学ぶ



案内人から課題インプット



2DAY

- フィールドワーク
 - ・ 小田地区の林業を視察
 - ・ バイオマス発電所見学
 - ・ デジファブ体験
- ワークショップ
or アイデアソン



課題現場体験でスタディ



ワーケーションで新たなビジネスの『可能性』を創出

3DAY

- 小田深山溪谷で
テントサウナ
- アウトプット練り上げ



課題解決案をアウトプット



4DAY

- ネクストステップ（再訪）
につなぐディスカッション
- 最終振り返り



愛媛県の強みは、プランをオーダーメイドで対応

※プランや滞在先などの要望は、県をはじめ地元関係者が一体となって、きめ細かく対応します。地域のキーパーソンとの交流も、希望に応じてワーケーション前からしっかりとサポート。愛媛流ワーケーションの実践を通じ、社員の成長やチームビルディングにもつながるよう皆様のニーズを把握して提案します。

愛媛でワーケーションした企業に聞きました（人材育成効果）

出典「企業テレワーク勤務実証実験事業補助金」利用者45名からのアンケート

非日常な環境でアイデア創出

- 普段と異なる場所や地元の人との交流で、新たな刺激をインプット
- 集中できる環境で、いつものミーティングも活性化！
- リラックスしたオフの時間に、ひらめきのヒントがあるかも。

体験者の声

- 自然に囲まれていることで、オフィスでのミーティングと異なる雰囲気があったことも、ひらめき等に通じました。
- 空間デザインの仕事をしているので、いつもと異なる環境下では、新しいアイデアが得られそうです。
- コミュニケーションも増えることで、ディスカッションも増え、アイデア等のひらめきにつながっていました。

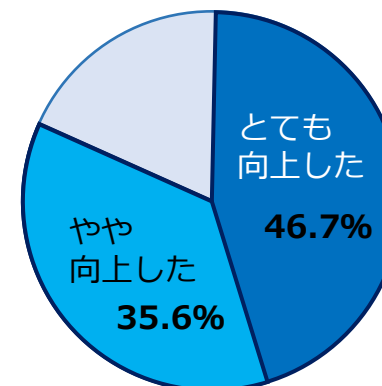
チームビルディングの向上

- リモートワークにおけるコミュニケーション不足の解消へ
- チームでの合宿や新人・階層別研修にも最適！

体験者の声

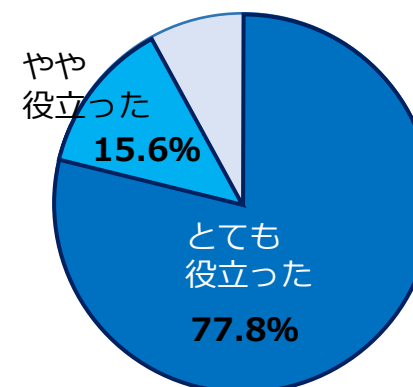
- リモートワーク中心であったため、チームで仕事することで、コミュニケーションが、いつもより円滑になりました。
- 普段、あまり触れ合う機会のないメンバーと寝食をともにすることで、業務に限らず、お互いのことをよく知ることができました。
- コミュニケーション向上とチームの信頼度アップにつながり、一体感が増しました。

Q アイデアのひらめき、発想力は向上しましたか？



82.3%の人が向上しました。

Q チームビルディングに役立ちましたか？



93.4%の人が役立ちました。

COWORKING-HUB nanyo sign (南予サイン)

南予の玄関口 内子町に構えるコワーキングスペース



設 備	電源、ホワイトボード、モニター、プロジェクター、スピーカー、複合プリンター、冷蔵庫、電子レンジ 等
個 室	あり (3部屋) [個室] 2室 (1~4名程度) [会議室] 1室 (3~4名程度)
通信環境 通信速度	Wi-Fi6 (最大1.3Gbps)

一般社団法人日本ワーケーション協会公認のワーケーションコンシェルジュ「山口聡子」です。
私が常駐して皆様のワーケーションをサポートしたいと思いますので、心よりお待ちしております。

住 所：喜多郡内子町内子2023
内子まちの駅Nanze2F
アクセス：松山自動車道内子ICから車で5分
JR内子駅から徒歩10分



森の入り口。お宿「にのみや」

昭和17年に二宮製材所として設立された木造古民家。令和3年には登録有形文化財に指定。意匠が凝られた木とガラス板がふんだんに使われた力強い佇まい。



管理人 岡山紘明さん

若者が暮らしやすい田舎づくりを目的に、3年間、内子町で地域おこし協力隊として活動し、本を売らない本屋「どい（do it）書店」を開業。さまざまなアイデアでにぎわいを生み、小田地区に移住したい若者も増え続けている。

小さな奇跡とも呼べる出来事は、空き家に詰まった大きな可能性を感じさせてくれます。



生かせば変わる地域の未来（空き家と向き合い、生かす選択）

町並みの入り口。

築170年の古民家を活用した、交流を楽しむゲストハウス「内子晴れ」



オーナー 山内大輔さん

人と人をつなぐ仕組みをつくって、まちづくりをするコミュニティデザイナーの取組みを知って、3年間、内子町で地域おこし協力隊として活動し、ゲストハウスを開業。

地域住民と交流できるバーなど、宿の機能だけでなく、人と人をつなぐ場所として、内子に来てよかったと思うツアーづくりにも取り組む。内子の中心地で働く今も、山深い小田地区で暮らしています。

おすすめは、ブランド豚「内子豚」のせいろ蒸し。内子豚の柔らかい旨味と野菜の甘味が凝縮された一品。

生かせば変わる地域の未来（空き家と向き合い、生かす選択）

えま
ひめ
め



内子町は江戸、明治、大正、昭和の面影がそこかしこに残る。誰もが心に持っている故郷のような居心地の良さは、まさに日本の原風景。先人の知恵と美意識の結集ともいえる古民家の宿は、初めて訪ねた宿なのに、「ただいま」と言いたくなるかもしれません。

内子町の宿情報
公式観光サイト「内子さんぽ」



都市部企業との継続的な関係づくりを推進するため ワークショップの実践を支援

■ 補助条件

- ①参加人数5人以上、かつ、連続3泊以上
- ②再訪が見込まれる実施内容

■ 対象になる内容

- ①地域交流による社員育成
- ②地域の課題解決や共創による地域活性化
- ③新たなアイデアやビジネス創出

■ 補助金額

1社当たり最大40万円（補助率3分の2以内）

※南予地域で実施の場合



令和5年度愛媛県企業合宿型
ワークショップ定着促進補助金

- 1 内子町について
- 2 林業の課題について
- 3 県・町・地域の取組みについて
- 4 ワークেশヨンプランについて
- 5 **最後に未来に向けて**

2050年カーボンニュートラルへの森林・木材分野の貢献

林業は川の流れのように、山から町につながっています。山を健全に育て、林業を持続可能な産業にするためには、木を育てて切る人（川上）、木材を加工する人（川中）、商品や燃料を販売する人（川下）へ木材が自然に流れ、利益を山に還元することが必要です。ここでは木材がどのように作られ、どのように流れているのか、イラストで紹介します。

①植林（1年目）
伐採後、整地した土地に新しい苗木を、一本一本手作業で植えていきます。



②下刈り・除伐（1～7年）
苗木の生育を妨げないように、雑草木を刈り取ります。



山の循環

約50年かけて植林・生育・伐採のサイクルを回して、健康な山を育てます。

④主伐（50～60年）
十分に成長した木を木材として利用するために伐採し、収穫していきます。



③間伐（15年目～）
太陽光が十分に届き、健全な木が育つように、混み合った森林の一部を間引きします。



木材の利用
製材した木は、家の柱や床、家具、パレットなどになります。



製材
原木市場などで買った丸太を板や角材、合材などに加工します。



燃料として
木を細かく砕いたチップやペレットなどの木質燃料はボイラーやストーブの燃料として使われます。



ペレット
低質材などを細かく砕き、小さな円筒形に圧縮して作った木質燃料（ペレット）になります。



原木市場
山から切り出した木を集め、長さや幹の太さなど種類ごとに選別、競り売りもします。



集材・運搬
間伐や主伐で切った木を林道端まで集めた後、トラックで運んでいきます。

出典：広報うちこ 2017.10

内子町脱炭素戦略

基本方針

林業×発電×熱利用で循環型社会の実現	バイオマスタウン構想	林業推進でCO2吸収量拡大	木質バイオマス発電の持続化
町並み、村並み、山並みを持続する温故知新な再エネ導入	再エネ×林業で山並みを持続	町並み保存と再エネ導入の両立	
不安定な再エネ事業を官民連携でカバー	電力の地産地消の推進	地域電力会社の設立	電力事業に備えたりスク対策



林業 × 未来

